東京日野プロバスクラブ

プロバスだより

令和２年８月20日発行
第116号

創立平成22年９月16日

「健康・安全を第一に、楽しく 持続的な クラブ活動を発展させよう」

令和2年度（2020年度）　会 長　矢野 凱弓（かつゆみ）　幹 事　渡辺　明

令和2年9月16日　（クラブ第11年度 第2号）

理　事　会

日時：令和２年９月10日（木）10：00～12：00
場所：日野市多摩平交流センター２階　　出席９名

コロナ禍の中、自宅を出る時に検温、例会委員会委員長には予備のマスク・消毒液等の持参をお願いした。

会 長 挨 拶　　矢野　凱弓　会長

７月は月末まで異例の長梅雨、８月は一転して連日の猛暑でした。蒸し暑い夏季は、ウイルスがおとなしくなると期待されましたが、新型コロナは季節に関係なく世界各地で猛威を振るっています。
９月３日で世界の感染者は２６百万人、死者８６万人。写真は毎日報道されている見慣れたテレビ画面ですが、東京がコロナ第二波に襲われたのは一目瞭然です。６月１９日には都の休業要請が全面解除され、我々も７月１６日に５ヶ月ぶりに例会を再開出来ました。クラブ１１年目の活動スタートでした。

しかしその直後より都内の新規感染者数は急増を続け、例会場の高幡不動尊客殿も再び閉鎖されました。
少人数の４役会は継続開催していますが、８月の対面理事会と例会は中止せざるを得ませんでした。
メールによる理事会の内容はプロバスだより前号（８月発行１１５号）に前倒しで収録されています。
　本稿執筆現在、都の警戒レベルは４段階で最も深刻な「感染が拡大している」であり、例会場も９月末まで閉鎖との通告を受けております。９月１０日の理事会にて対応を協議します。
米国の６百万人、ブラジルとインドの４百万人、ロシアの１百万人に比べると、日本は累計感染者７万人で２桁違いの少なさです。死者数も上記４ヶ国の１００分の１以下です。
自粛という閉門蟄居と、渡航制限という鎖国政策が日本では有効に機能していますが、永久に続けられる策ではありません。マスクと３密回避だけでは安心安全とは到底言えず、有効な治療薬とワクチンの供給が待たれます。幸い大金を投じている主要国の薬の開発は猛烈なスピードで進んでおり、近い将来に朗報が期待できそうです。
　ところで、日野プロバスでは２０１８年４月に熊井治孝先生に「動物由来感染症について」という講演をして頂きました。会報９０号に要旨が載っていますが、手を洗う、換気をする、過剰な触れ合いを控える、といった注意事項の提起は今回の「人獣共通感染症」にまさに適うものです。このような先見性のある企画をされた、当時の関係者に敬意を表します。
　われわれは高齢と言う免疫弱者集団ですので、感染防止に気を配りながら適時適切なクラブ活動を楽しめればと願っています。

近 況 報 告　　渡辺　明　幹事

コロナ禍の始まる２月末に入院（入院中は隔離病棟で家族との面会禁止）、３月初旬に強引に退院、その後コロナ感染者の増加に伴い、プロバス理事会・例会は会場の使用が出来ず中止、自宅でする事もなくゴロゴロと、その間体力の衰えを感じて自分に出来る事と思い、高齢者に簡単にできる散歩を計画、無理のない２日に１度6,000歩を目標に設定、自宅を中心に２ルート東・西コースの浅川の遊歩道を基本（雨の日は中止）に日中は暑いので朝５時に自宅出発で、約１時間の目標で現在まで散歩を継続中です。
　６時頃になると道は多くの散歩の人で混んで来ます。日の出時の空模様等をスマホで撮り楽しんでおります。（何時まで続くやら？）これからは、秋に入るので日の出が遅くなるので、散歩の時間帯の変更を夕方に検討中です。

全日本プロバス協議会報告　　山本 英次　理事

　全日本プロバス協議会におきましても、コロナの影響から「令和２年８月暫定総会」が文書による提案・投票に変更されまして、昨日（８月１９日）に議案書がメール送信されてきました。
　古賀康子会長のあいさつに始まり、過年度の事業報告と決算報告、次年度と次々年度の事業計画および予算案、更に第７議案「役員改選案：新任副会長（八王子・田中信昭氏）新任理事（日野・山本英次）」となっています。
　なお、第９回全国総会（五所川原大会）は２１年８月８日、第１０回は東京八王子大会が予定されています。

委　員　長　投　稿　欄

○例会委員会　　**吉ノ元 身良 委員長**

≪野菜栽培≫

小生の野菜づくりは50歳ごろから始めました。
元々実家が宮崎県都城市の片田舎、吉之元町の農家なので苦労もなく始めていました。

自己所有地の農地は3箇所で合計180坪ぐらいあります。本業は別にありますので農業に本腰は入れていませんが、振り返れば24年ぐらいは耕作ています。週に3～4日は畑に出向き目を通し、麦わら帽子の下は汗だくの日々です。ズボン、肌着とも、まっくろくろすけになります、　耕運機は3代目です。

嫁いだ娘2人、2家族分と自宅用合わせて3家族分を作付けをしています。年間に作る作物及び果物の種類は凡そ25種類ぐらいで、約3～4か月前から準備です。
得意作物果物は、スイカ、トマト、まくわうり、きゅうり、玉ネギ、ゴウヤ、白菜、大根、カキナ、パクチー、レタス、モロヘイヤ、ニンニク、ブルーベリー、その他等々です。

育て方には、それぞれ種類により個性と特徴があり面白く感じます。その個性と特徴を上手に引き出してやれるかが腕の見せ所かな。今年も孫たちとジャガイモ堀をしました。突風、大雨を乗り切り9月3日に種を蒔いた青首大根が可愛い芽を出しました。これから土寄せ、間引きです。自作の冬の大根、白菜は特別美味しいと感じます。

○情報委員会　　**大島　芳幸　委員長**

「プロバスだより」116号をお届け致します。

今回より会員紹介記事を掲載します。FAX・メール等で原稿を依頼しますのでご協力方お願い致します。

○会員委員会　　**後藤　紀之　委員長**

新型コロナウィルスの感染者数も、政府・東京都無策のまま依然高止まりの状態で推移していますが、最近は自民党の新総裁選びの茶番がマスコミを賑わせています。更に、観測史上最大級の台風の襲来と、世の中何か少しずつおかしくなって来ている感があります。
プロバスクラブの集まりも3月以降一度開催できたものの現在は又、休会となっています。この様な状況下で会員の増強もままなりませんが、知り合いの方々でクラブに興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら是非お声掛けして頂きたくお願い致します。

○研修委員会　　**疋田　久武　委員長**

研修委員会といたしまして、コロナウイルス感染拡大防止の影響を受け、例会の実施も難しい状態の中で研修活動が何もできておりません。研修委員長を受任した私と致しましては、非常に戸惑っております。今後、この状況下の中でどのような活動が考えられるか、研修委員をはじめ会員の皆様のご助言を賜りたいと思います。

○地域奉仕委員会　　**林　良健　　委員長**

地域奉仕委員会としては、コロナ禍の状況下で地域行事は中止、「健康吹き矢」としての活動はボランティアセンター関係、子育て課関係の活動も中止となり、静観しています。

≪同好会報告≫

○ゴルフ同好会　　**小島　康義　会　長**

10月23日（金）日野3クラブ合同ゴルフコンペを河口湖ＣＣにて開催予定。詳細はメール・FAXで通知します。

８月・９月　誕生日の会員

８月生まれ

小島　馨	（S20.08.18）	横山　好忠	（S09.08.23）
村上　光	（S24.08.29）	太田　健	（S33.08.10）

９月生まれ

澤田　研二	（S19.09.13）	田村　豊章	（S22.09.06）
魚住　徹	（S21.09.23）	本部　晧允	（S13.09.27）

会　員　紹　介

「戦後７５年の夏に思うこと」　篠原　昭雄　会員

私は、甲州釜無川氾濫防止のための信玄堤や幕末の勤皇志士の山県大貳（やまがただいに）の生誕地（山県神社）で知られる明媚な農村　竜王（現甲斐市）に生まれました。

米寿を過ぎたこの程しきりに郷里や縁故地のことが懐かしく脳裏に浮かんできます。それは同級生や知人の大半が亡くなり、人生中途にして他界したこれらの人たちへの回向（えこう）の表れかも知れません。

終戦は旧制中学の三年時、当時特攻機を保管し村の森に隠蔽する勤労奉仕を行っていた釜無河畔の玉幡飛行場で知りました。甲府市にあった母校はすでに終戦１ヶ月前７月８日に焼失していました。青雲の志を抱いて入学した母校の後片付けを意気消沈しながらやっていた時に担任の石原博之先生(数学)に呼び出されて「君には見どころがある。これに負けずに頑張ばれば必ず道は開ける」と力づけられました。

猛勉の甲斐あってか順調に教育の道に進むことができました。先生のこの一言は迷える少年の心に強く響き、今でも忘れられません。このような励ましや支援は、私の人生の過渡期ごとに先輩・知人からしばしば得られました。

戦後の日本社会の安定と豊かさは、このような交流や相互依存関係の深化によって築かれたといえます。
これに立ちはだかり、持続性を阻んだのが新型ウィルス感染症拡大でした。戦後、グローバル化による密接な交流や相互依存を通して、ひたすら進化させてきた現代社会の生活様式は未知なる感染症によって分断され、脆くも崩れてしまいました。

その最中（さなか）の今夏のメディアには、戦後７５年を反映してか戦争の悲惨さや戦没者情報が頻（しき）りに色濃く流されました。それは二度と戦争を繰返してはならないという平和へのメッセージのように私には思われました。　今夏には以上の二つが引き金になって社会の経済や生活様式や秩序を大きく変化させました。それらの何がどのように変化させたのか、その変化にどのように対応したらよいか、それを見極め課題を打開していくことがこれからを生きる人たちに委ねられていると思われます。

編集・発行：東京日野プロバスクラブ　情報委員会
大島芳幸、魚住　徹、篠原昭雄、山本英次、
小西弘純　本部 晧允　小林昭治
ホームページ：https://www.hinopc.com
検索には「日野プロバス」でクリック!!
若しくは、QRコードを読み取ってください